キーワードは「チーム!」

●「みんなで支援　みんなが笑顔」が肝心

第３集では，これまで小学校，中学校，自律学校で実践されてきた事例を掲載しました。読んでみて分かるのは，どれひとつとして一人のスーパーマンが問題の解決を導いている事例はないということです。まさしく「みんなで支援」し「みんなが笑顔」になることを目指して，学校が一丸となって取り組んできた事例です。

本年度までに県下の全小・中・自律学校でＳＲＥＣが指名されました。各校では，ＳＲＥＣを中心に特別な教育的支援の必要な児童生徒に対する支援が進められていると思いますが，ＳＲＥＣだってスーパーマンである必要はありません。

●「役割の分掌化」が「みんなで支援」を阻んでいる？

一人一人の児童生徒に対し，校内で責任を負って支援しているのは誰でしょうか。学級の児童生徒であれば学級担任，部活動であれば部活動顧問ということになるでしょう。そして学校組織は「役割の分掌化」が明確になっており，よって学級担任，あるいは部活動顧問は一人で責任を背負ってしまう場合も少なくありません。責任感が強いばかりに，そうした状況に陥りやすい傾向があります。

また，このような例もあります。多動な児童に対して一人の介助員がその児童を支援する役割を分掌され，毎日一緒に生活しました。担任教師はだんだんとその介助員に任せきりになりました。介助員は，一緒に生活して悩んでいることなどを話す場がなく，一人で悩みを抱え込んでしまいました。一見支援体制が築かれているように見えますが，実際には十分機能していないということになります。

教師は「みんなで支援」ということがあまり得意ではないようです。仕事が分掌化され自己完結型で営まれている学校システムにおいては意識を変えないと，「みんなで支援」するという体制はできにくいのかもしれません。

※ＳＲＥＣ（エスレック）（Self-Reliance Education Coordinator）
　自律教育コーディネーター

●「チーム支援」を行う

児童生徒は，様々な人たちとのかかわりを通して発達・成長していきます。特別な教育的支援が必要な児童生徒も同じです。一人だけがかかわるのではなく，児童生徒を取り巻く多くの人たちが，連携して支援にあたることが重要です。これが「チーム支援」です。第３集に掲載されている事例は，「チーム支援」を実践しています。

チームで進められている支援には，次のような姿が認められます。

①児童生徒を中心に，支援する人たちが結びついている。
②児童生徒についての情報や支援の目標等をメンバーが共有している。
※個人情報の扱いには，十分配慮して下さい。
③児童生徒にかかわる様々な立場のメンバーが各々の専門性をもってチームに参加し，お互いに尊重し合いながら力を発揮している。
④メンバー間のコミュニケーションが盛んである。
⑤チームにおいて，支援にかかわる役割が明確になっている。
⑥特定のメンバーのみに過剰な負担がかからず，相互に補い合って進めている。

自分の学校の校内支援の姿は，上記の項目と比べてどうでしょうか。チェックしてみましょう。「児童生徒をどうするか」の前に，「教師自身（教師集団）がどうするか」を語り合うことから始めた方がよい場合もあるでしょう。

●そして「授業」で勝負する！

現在進められている各校の奮闘が成果として積み上げられていくと思いますが，私たち教師は，やはり「授業」で勝負しなければいけないと考えます。「授業」にかかわる実践の積み上げを是非大事にしていきたいものです。

最近では，自律教育の授業研究のテーマに，通常の学級における教科指導のあり方を取り上げる学校も出てきています。